



嵯峨の福祉

第142号

嵯峨自治会連合会
嵯峨社会福祉協議会

観光課題への取組みと地域との調和

嵐山商店街会長 石川 恵介

〈インバウンド客の興隆と美化対策〉

日頃は嵐山商店街の活動にご理解、協力いただきありがとうございます。住民の皆様にもご協力ご助言をいただきながら、より良い嵐山にするための取組みについて、ご報告させていただきます。嵐山商店街は渡月橋の北詰から長辻通を中心にL字型の地域に約100軒の土産物店や飲食店が加盟しております。コロナ禍の厳しい状況を経て、現在は円安も追い風となりインバウンド客を中心に賑わいを取り戻しておりますが、ベースとしてもっと国内のお客様にお越しいただける施策の必要性も感じております。また、ゴミ課題に対しては店舗毎の清掃に加えて、月1回の商店街合同の清掃活動やボランティアや地域の皆様の朝夕の清掃のおかげで、嵐山は比較的に美観を保っていますが、残念ながらポイ捨てもあるのも事実です。商店街では多言語での啓蒙ポスターや昨年11月には市や嵯峨美大の協力を得て、食べ歩きの容器をお店に戻すとお守りがもらえるハートバック制度や毎日15時のクリーンタイム活動等さまざまな活動を実施しております。

〈長辻通の安全と周辺住民への配慮〉

一昨年に市の対策で行われた1ヶ月間の北行き一方通行実験の際に、初めて地域住民の方へのアンケートが行われ、右京区主導により、京都市、嵯峨自治会連合会、嵐山保勝会、嵐山商店街で周辺住民の皆様から数回にわたりご意見をお聞かせいただきました。様々な協議の結果、住民の方の一方通行によるご不便を軽減すべく、昨年秋は住民専用のジャンボタクシーを巡回させる事業を試験的に実施しました。費用の半分は市からの助成金を充て、残りは嵐山保勝会と嵐山商店街で負担いたしました。それに呼応しバスも10時以前と17時以降は通常通りの南行きが実現して高齢者の通院などのご不便は少し解消されました。今後もバス停の移動、タクシーや荷下ろしの車の駐車場所や時間制限などを厳格にする必要性など、長辻通の安全を確保するために地域の皆様や事業者間の議論が必要だと感じています。

〈住んでよし訪れてよしの嵐山〉

短期間に急増した外国人観光客に、行政も地域も事業者も対応が後手後手になって様々な課題が顕在化しています。嵐山商店街では、地域住民との調和も注力して取り組むべき課題であると認識しております。この素晴らしい嵐山の景観、環境を保ち地域の皆さんが誇りを持ち、その景色を、人々が暮らす地域を垣間見に国内の観光客が訪れ、国内客がお越しになる地域に外国人観光客が行きたいと思う地域が持続可能な観光地と考えます。「こんなとこ住めない」と住民がいなくなった観光地は張りぼてのテーマパークとなりいずれ廃れます。50年後100年後も世界に誇れる嵐山であるために、今後ともご理解ご協力をどうぞよろしくお願いたします。



左のQRコードから
カラー誌面がご覧
いただけます。

題字左のカット画像は、吉川祥子さんをお願いしております。

出初式の始まりは江戸時代（1659年）



新年1月13日（祝）に右京消防団嵯峨分団の出初式が厳粛に執り行われました。嵯峨学区を火事・防災から守って36年、分団長の山田 栄次さんに出初式についてお話を伺いました。

「出初式」が始まった当時の江戸の町は、2年前に発生した明暦の大火からいまだ復興できていませんでした。明暦の大火は、犠牲者は10万人とも言われ、町民はすっかり気落ちしていたのです。

1659年1月4日、老中・稲葉伊予守正則は、幕府直轄の消防組織「定火消」の4隊を指揮して上野東照宮前に赴き、氣勢をあげました。江戸っ子たちは大いに励まされ、この儀式は、江戸町民の復興の意欲を改めて燃やすこととなり、「出初」の式として讃えられました。これが、次第に儀式化されて恒例行事となり、現在の「出初式」に受け継がれています。

京都においても江戸時代の町方火消しから始まり、明治9年に消防組、昭和13年に警防団、昭和23年に現在の消防団組織になっています。

そのころから嵯峨消防分団では、毎年京都市消防局の出初式の翌日（現在成人の日）防火、防災意識の向上と地域の方々に、消防団の規律を見て頂くために行っております。

現在18歳から66歳の34名で活動しています。それぞれ本業の仕事を持ちながら非常勤公務員として務めています。

嵯峨小学校4年生の「福祉」学習

嵯峨社会福祉協議会と社会福祉法人 健光園は嵯峨小学校からの要請に基づき、嵯峨地域包括支援センターによる「認知症サポーター養成講座」及び、90分の『特別授業』を実施し、また児童は健光園を訪問して高齢者との交流活動を行いました。以下、本学習担当 磯橋先生のレポートです。

4年生は、総合的な学習の時間で、「福祉」をテーマに学習をしています。単元名は「ユニバーサルタウン 嵯峨～笑顔あふれるまちづくり～」です。

学習では、実際に身近にあるバリアフリーについて調べたり、特別授業で体の不自由な人のお話をお聞きしたり、社会福祉協議会の取組について教えていただいたりする中で、子どもたちなりに、大切なことが見えてきたようです。「福祉って何だろう？」と聞くと、「笑顔」「幸せ」「やさしさ」「平等」・・・とたくさんのキーワードが出てきました。

現在も「笑顔あふれるまちにしたい」「自分たちにできることは何だろう」と、正解のない問いを探究しながら、「プロジェクト」を進めています。

2月13日（木）、「健光園」を訪問し、高齢者の方々と交流会をさせていただきました。クイズ、劇、漫才、ダンスなど、子どもたちが主体となって内容を企画し、高齢者の方々と一緒にお話をしながら、笑顔あふれるひと時を過ごすことができました。

これから先、世代をこえて、『ともに生きる嵯峨のまち』をつくって欲しいと願っています。



特別授業①



特別授業②



健光園での交流会

この広報誌は皆様のご好意、ご協力をえた社会福祉賛助会費および共同募金の財源を活用し発行しています。

嵯峨の由来

前回第137号よりスタートした国際日本文化研究センター名誉教授である早川間多さんによる「嵯峨の由来」シリーズ、第5回目は嵯峨の植物です。
なお、早川さんは嵯峨小学校卒業生です。

嵯峨の植物

(1)「仙翁花」 私が『嵯峨誌』の編集をしてみた時、曼荼羅山の麓の「辨財天」を見に行つた時、すぐ側の家の方に紅緋の草花を見せてもらひ、この花は仙翁町と鳥居本町の二、三件の家にしかないと聞きました。この花はナデシコ科の雑種で岩菲と似て赤橙色で、「仙翁花」といふ花でした。「仙翁」は飛鳥時代に天竺(インド)の靈鷲山から渡來した法道仙人が曼荼羅山の山腹に創建した仙翁寺の意で、「仙翁」は「仙人」の意味だつたからです。「仙翁花」は繁殖率が悪く、室町時代まで長い間流通してをらず、「幻の花」といはれてゐました。



(2)「嵯峨菊」 嵯峨菊の起源は嵯峨天皇に由来し、嵯峨天皇が大澤池の「菊ヶ島」の菊を御覧になつた時、自らその枝を殿上の花瓶にお挿しになりました。その時、花輪の形が「天地人」に適ひ、色彩も「四季」に適つてゐたので、「後の世に挿花を賞する者はこれを手本にするとよい」とおつしやられました。花輪は「天地人」すなはち「七五三」が特徴で、上段の三輪が「天」、中段の五輪が「地」、下段の七輪が「人」を表してゐます。花弁はいづれも細長く線香花火を上向きにしたやうに廣がり、花色は桃色の「御所の春」、朱赤色の「御所錦の夏」、黄色の「御所の秋」、白色の「御所の雪」の「四季」です。その氣品ある姿と香は獨特の古代菊として、大覺寺の「嵯峨御流」の華道として古くは門外不出になつてゐました。

(3)「小倉山の紅葉」 嵯峨の紅葉といへば、百人一首の「小倉山峯の紅葉葉心あらばいま一度の御幸待たなん貞信公」といふ和歌が思ひ出されます。この歌は藤原忠平(880~949)の歌で、『拾遺集』の詞書によると、時の宇多上皇が大堰川に遊ばれた時、紅葉がたいへん美しいので、「醍醐天皇の御幸の時にもぜひ見せたいものだ」とおつしやつたので、貞信公こと忠平が宇多上皇の代わりに詠んだものです。なほ、この歌の小倉山は嵐山と龜尾山を含んだ小椋山であつたと思はれます。また嵯峨の紅葉は葉が薄く小さいことが特徴の「いろは紅葉」です。

(4)「嵐山の櫻」 嵐山に櫻が植ゑられたのは鎌倉時代からです。『續古今集』(1265年)によると、龜尾山の麓の龜山仙洞御所にお住みひであつた後嵯峨天皇の御製に、龜山の仙洞に吉野の山の櫻をあまた移し植ゑ侍りしが、花の咲けるを見て、

「春ごとに思ひやられし三吉野の花は今日こそ宿に咲きけれ 後嵯峨院」



とあり、龜尾山や嵐山に吉野の櫻が移植されました。そして龜山御所から嵐山に通ふために、大堰川に美しい大橋が架けられました。天龍寺の古文書には、嵐山の櫻は山櫻のみであつたとあり、江戸時代には花見客に櫻の苗木を寄付させたとあります。

(5)「保津川躑躅」 龜山公園には春には赤紫の「三葉躑躅」がたくさん植ゑられてをり、夏には保津川の岩間に紅緋色の「岩躑躅」が散在してゐます。特に保津川下りで見える色鮮やかな岩躑躅は「保津川躑躅」と呼び習はしてゐます。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
 ♡ みんなの♡
 ♡ けんこう♡
 ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

春を迎えて

今年になり、1月は比較的暖かでしたが、2月に入り、最強の寒波が2度もやってきて、冬型の気圧配置が強まり非常に寒くなりました。過去30年間の平均気温を下回る、最近の京都では珍しい底冷えが続きました。そして3月、春を迎えました。日によっては寒暖差も大きく、体調を崩しやすい季節です。その対策として次のようなことが考えられます。



- ・十分な睡眠と休養をとる・・疲労回復、先ずは睡眠からです
- ・水分をしっかりとる・・発汗等により失われた水分を補う
- ・栄養バランスの良い食事をとる・・身体本来の免疫力を発揮するため栄養補給が大切、特に朝食は重要です
- ・こまめに体を動かす・・ウォーキングやストレッチなど工夫しましょう。適度の運動は血流をよくし免疫力を強化します
- ・花粉症対策・・今年のスギ花粉の飛散量は去年の5倍とも言われています。早めの対策が必要です。

嵯峨小児童の作品から



5年 大屋 和充
 『しゃちのおやこ』



6年 青山 早耶音
 『名物かき氷！ 復活大作戦』

花ごよみ

フジ（藤）

マメ科 開花時期：4月～5月頃

由来には定説がないが、風が吹くほどに花が散るので「咲き散る」の意であるといわれています。

藤はかんざしのような長い花を下垂させて咲く、マメ科のつる植物です。藤の花にはふわりと甘い芳香があります。

社協・賛助会員ご加入の御礼

令和6年度賛助会員加入にご協力賜り誠にありがとうございました。

令和7年3月～6月上旬行事予定表

嵯峨社会福祉協議会事業ほか

月	日	曜	行事予定など	備考
3	6	木	広報誌「嵯峨の福祉」第142号発行	
	8	土	たくろう会	嵯峨小コミュニティルーム
	8	土	第31回講演のつどい「嵯峨の由来（3）春画の発祥は嵯峨」 14時	ホテルビナリオ嵯峨嵐山
	12	水	カフェ名古屋	③
	18	火	カフェしゃか	①
4	1	火	カフェくるまみち	②
	9	水	カフェ名古屋	③
	12	土	たくろう会	嵯峨小コミュニティルーム
	15	火	カフェしゃか	①
5	6	火	カフェくるまみち	②
	10	土	たくろう会	嵯峨小コミュニティルーム
			春の遠足	
	14	水	カフェ名古屋	③
6	20	火	カフェしゃか	①
	3	火	カフェくるまみち	②
	5	木	広報誌「嵯峨の福祉」第143号発行	

①すこやかカフェしゃか毎月第3火曜日10時～12時、西井頭町会議所
 ②カフェくるまみち毎月第1火曜日10時～12時、JR 嵯峨嵐山駅下ル 京都新聞販売所北
 ③カフェ名古屋 毎月第2水曜日10時～12時、大覚寺バス停の隣 社会福祉法人徳光園内
 【注】以上の予定は諸事情により変更となる場合があります。